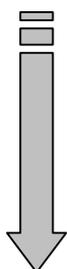


路線整備の意義必要性、ミッション、整備効果について

1. 路線整備の意義・必要性について

■意義必要性の整理の流れ



○近畿地方交通審議会の答申に関する内容〔(1)、(2)、(3)、(4)〕

○広域的な意義・必要性に関する内容〔(5)、(6)、(7)〕

○箕面市における意義・必要性に関する内容〔(8)、(9)〕

(1) 大阪都心部へのアクセス時間短縮

- 箕面市域は、大阪府の市町村の中でも特に大阪市方面への流動が多い地域であり、都心との結びつきが強い地域であるが、都心方面の交通需要に対しては、千里中央までの輸送を路線バスに頼っている状況である（バスの分担率は約70%）。
- このため、箕面市域は、大阪都心から20km圏において、鉄道不便地域（自動車での移動は便利だが、鉄道での移動が不便な地域）の一つとなっており、鉄道によるアクセス時間を短縮する必要がある。
- 当該路線の整備により、都心部へのアクセス時間が短縮され、都心部との結節強化が図られる。

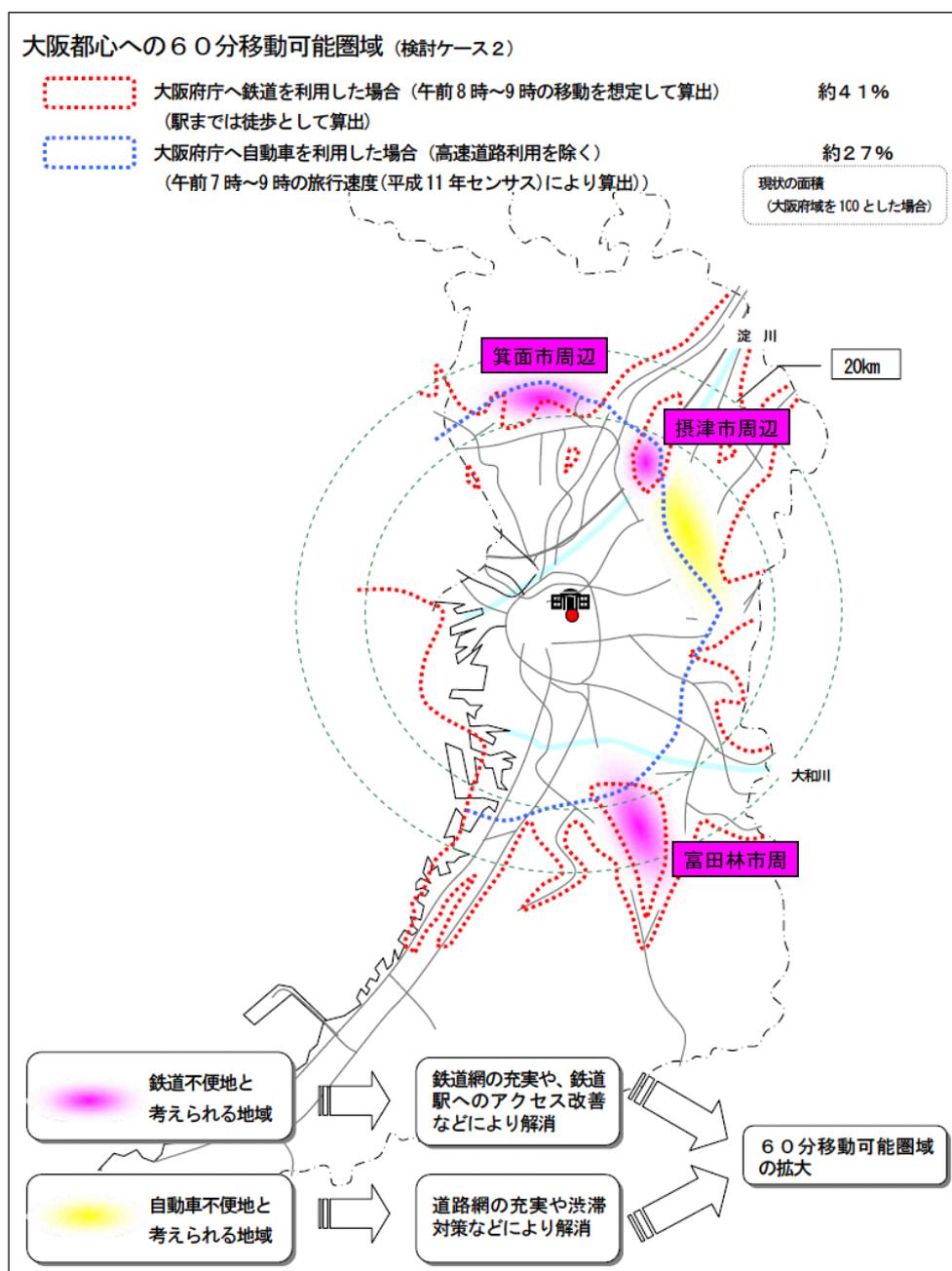
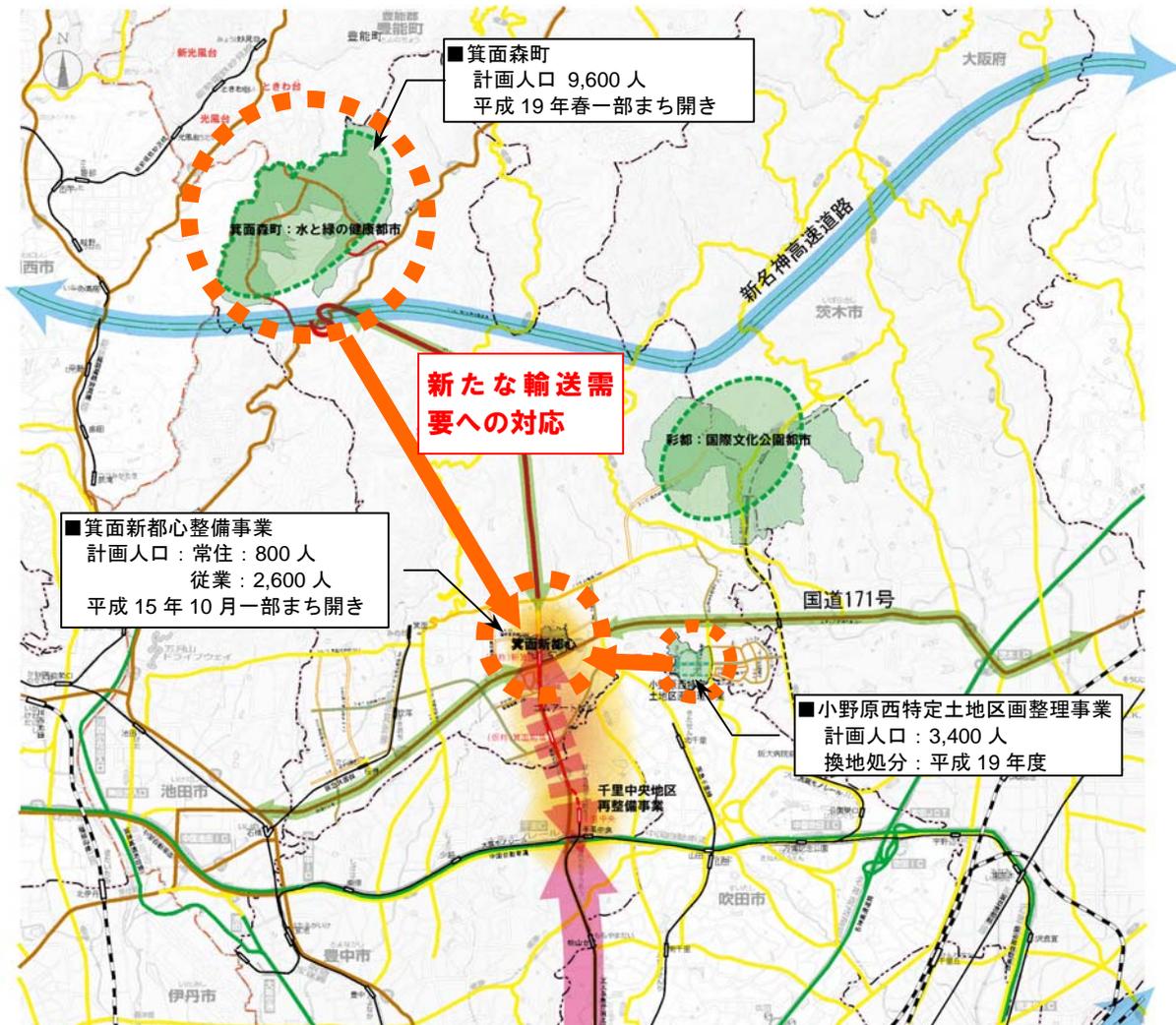


図 大阪都心から20km圏の鉄道不便地域

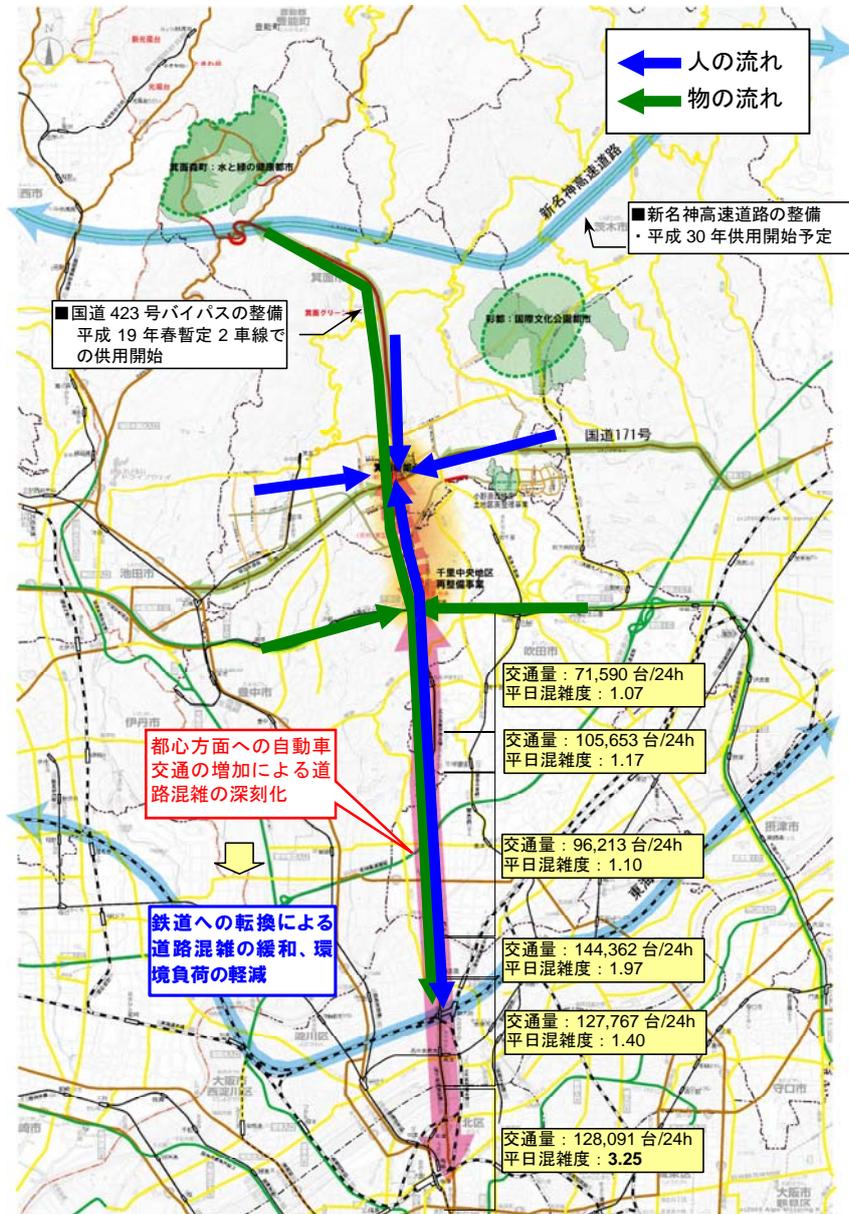
(2) 新たな輸送需要への対応

- 箕面新都心、箕面森町等の開発により、新たな輸送需要が発生する。これに伴う、都心方面への交通流動の増加に対応するとともに、開発地域の人口定着を着実に進めるためには、鉄道を中心とした利便性の高い公共交通ネットワークの構築が必要である。
- 当該路線の整備により、新たな輸送需要への対応が図られる。



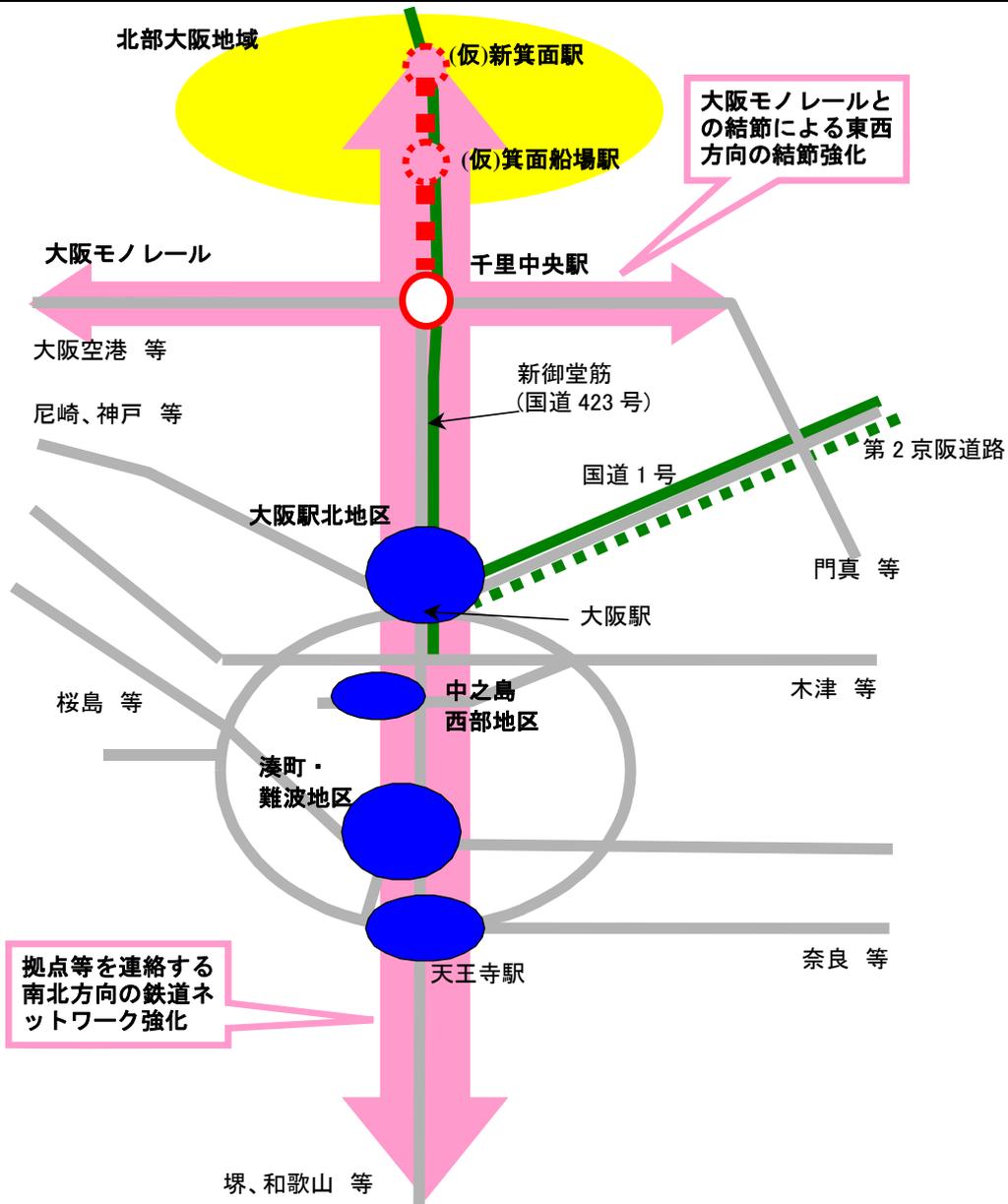
(3) 都心方面への道路交通混雑の緩和や環境負荷の軽減

- 新たな開発による人口の増加および箕面有料道路（国道 423 号バイパス）の整備や新名神高速道路の整備により、都心方面の自動車交通量は今後さらに増加すると考えられる。これにより、すでに混雑度が 2.0 以上の区間も存在するなど混雑している新御堂筋（国道 423 号）などの都心方面へのアクセス道路を中心とした道路混雑の深刻化が予想される。
- 2005 年 2 月 16 日に発効した京都議定書では、2008 年～2012 年に温室効果ガスの排出量を 6%減らすことが義務づけられており、運輸部門においては、特に自家用乗用車からの排出量の削減が重要な課題となっている。
- 当該路線の整備により、人流・物流の棲み分けが進み、人流については、自動車から鉄道への転換が図られ、新御堂筋（国道 423 号）をはじめとする道路混雑の緩和や環境負荷の軽減が期待できる。



(5) 大阪圏における鉄道ネットワークの強化

- 大阪圏における近年の鉄道整備は、中之島線や阪神なんば線などの東西方向の整備が進んでいる。また、道路整備として国道1号の道路混雑緩和を図るため、第2京阪道路の整備が進んでおり、東西方向は、鉄道と道路整備により人流・物流の棲み分けが進んでいる。
- 一方、大阪都市圏における南北方向の鉄道は、大動脈であり大阪の都市軸を形成する地下鉄御堂筋線及び北大阪急行線はあるが、並行する新御堂筋（国道423号）は、慢性的な道路混雑が発生している状況である。
- 当該路線の整備により、北部大阪地域と大阪駅北地区、中之島西部地区、湊町・難波地区、阿倍野地区等の拠点等を連絡する南北方向の鉄道アクセスの改善及び東西方向の大阪モノレールとの結節強化により、広域的な鉄道ネットワークの強化が図られるとともに、新御堂筋（国道423号）との機能分担により、大阪圏における自動車交通と公共交通による機能的な広域交通ネットワークの形成にも寄与する。



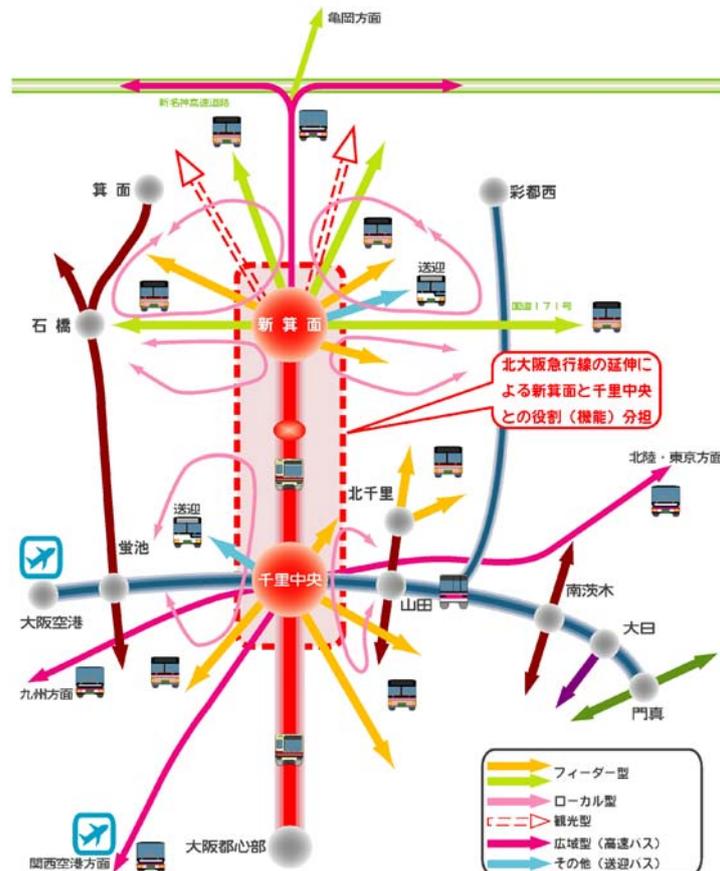
(6) 大阪圏における都市拠点の形成促進への寄与

- 北部大阪地域は、国土軸上に位置し、名神高速道路、中国縦貫自動車道、東海道新幹線などの広域交通基盤が充実しており、千里中央地区に代表される商業・業務機能に加え、大阪大学や千里ライフサイエンスセンター、彩都などの国際的な研究機関の集積が見られる。
- 千里中央地区は、商業・業務・住居などの機能が集積し、交通至便かつ、人口が集積した北大阪地域の一大拠点となっている。また、千里中央からかやの中央地区にかけても SSOK やマーケットパーク visola のような広い商圈を持つ商業施設等が立地し、これらの施設では年間 1,500 万人以上の集客がある。
- 千里中央地区～かやの中央地区にかけては、大阪府の都市計画マスタープランにおいてインナーエリアにおける都市拠点と位置づけられており、ポテンシャルの高いエリアとして、防災性の高い豊かな住環境を形成するとともに、商業・住居機能を強化し職住近接を図るなど、良好な企業環境を形成することで、都市活力を有する魅力ある地域へと再生していくとされている。
- 当該路線の整備により、新大阪・大阪都心が直結されることから、鉄道アクセスが充実し、かやの中央地区・船場団地と千里中央が連携して商業・産業の相乗効果を生み出し互いに発展することで、土地利用の高度化や都市機能の高度化が図られ、大阪圏における都市拠点の形成促進に寄与する。



(7) 北部大阪地域の広域交通拠点としての機能強化

- ▶ 北部大阪地域において、かやの中央地区は、既存の国道 171 号、新御堂筋（国道 423 号）による南北方向と東西方向の交通軸の結節点であるとともに、新名神高速道路や箕面有料道路（国道 423 号バイパス）の整備によって、新名神高速道路からかやの中央を経由して大阪都心方面と連絡する広域的な交通の軸上に位置することとなる。
- ▶ しかし、鉄道ネットワークは千里中央止まりで、千里中央以北はバス交通が主体となっている。一方、バス交通の受け皿となっている千里中央ターミナルでは、バスターミナルの混雑やバス乗降場の分散、一部のバス停におけるバリアフリー化の対応の遅れ等により、バスとの結節機能や利用者利便が十分に確保されていない面があるほか、タクシーや自家用車、自転車の過度な集中もあることから、交通結節点としての機能が飽和状態に近く、一層の機能向上が求められている。
- ▶ 当該路線の整備により、かやの中央地区は、豊能・能勢地域や京都中部等広域からの自動車交通の受け皿として、また箕面市域以北の路線バス・市内ローカルバスが集まるターミナルとして交通結節機能が整備され、広域的な交通拠点である千里中央地区との機能分担が可能となる。
- ▶ また、千里中央地区においても、バスターミナルの混雑緩和やタクシーや自家用車等の集中の緩和により、交通結節機能も改善・向上し、千里中央地区のアメニティの向上、魅力向上にも寄与する。
- ▶ これにより、新たな交通拠点であるかやの中央と既存の千里中央の交通拠点が機能分担することにより、北部大阪地域の広域交流拠点としての機能強化が図られ、北部大阪地域における都市再生、高次な商業・業務・流通機能や国際的な学術研究・情報の中枢機能等の都市機能の高度化に寄与する。



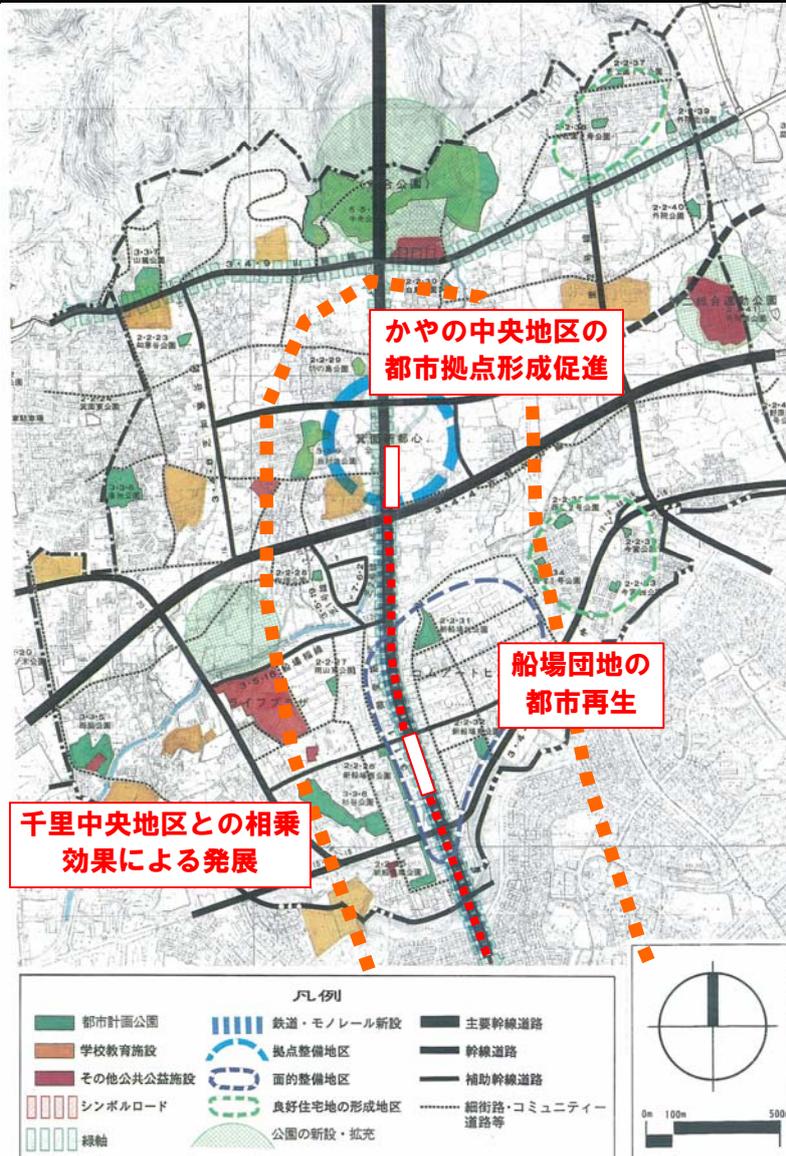
(8) 箕面市における公共交通指向型のまちづくりへの寄与（自家用車依存からの脱却）

- 箕面市は大阪市方面の交通流動が多く、大阪都心との結びつきが強い地域にもかかわらず、大阪府内において、大阪都心への鉄道利用が不便な地域の一つになっている。また、都心アクセス、市内々々移動ともに自家用車の利用が多く、大阪府内でも自家用自動車への依存が高い地域である。箕面市内から都心方面の公共交通輸送を担う路線バスネットワークは、千里中央から放射状に形成され、市内循環型のバス路線網は系統・本数ともに少ない。
- そのため、箕面市は、自動車がなければ生活しにくい拡散型の都市構造から、誰もが移動しやすく過度に自動車に頼らない公共交通主体のまちづくりを目指し、北大阪急行線の延伸、新駅の設置を前提に、市域中央部のかやの中央を新たな都市拠点として位置づけ、面整備や都市核型土地利用のまちづくりを推進してきた。
- これからの箕面市の活性化、少子高齢化への対応、環境問題への対応などのためには、自動車利用を前提とした市街地の拡散を抑制するとともに、かやの中央を中心とした交通拠点を形成し、地域生活拠点との連携強化を図り、自動車交通から公共交通への転換を図っていく必要がある。
- 当該路線の整備により、新駅の設置に伴う駅までの徒歩アクセス圏人口は増加すると考えられる。また、路線整備と併せて、かやの中央地区において交通結節点としての整備を行うことにより、駅を中心としたバス路線網の再編等、総合的な公共交通体系の整備が可能となり、市内の公共交通利便性向上が図られ、自動車交通から公共交通への転換が図られ、人と環境にやさしい公共交通指向の交通体系整備による高品質なまちづくりに寄与する。



(9) かやの中央の都市拠点形成促進と船場団地の都市再生への寄与

- 箕面市の中で、かやの中央地区は、都市拠点として位置づけられている。かやの中央地区は、商業・業務機能に加え、文化・情報・知識が集積し、また交通結節点として広域的な交流を生み出す箕面市の中心核となるものであり、箕面市の発展を担う地区である。
- また、船場団地は、日本有数の繊維卸商団地として活発な商業活動を展開してきた地区であり、かやの中央や千里中央地区とともに、北摂地域の都市核となる「千里中央拡大心都心」の一角をなす地区である。しかし、船場団地においては、繊維業界の不況等の影響から、まちの様相が急激に変化しつつある。今後の箕面市の発展においては、船場団地が繊維卸売業を根幹にしつつ、かやの中央や千里中央地区とリンクし、互いに相乗効果を生み出しながら商業・産業の発展をとげていくための、都市再生が急務となっている。
- 当該路線の整備により、船場団地及びかやの中央地区への多方面からのアクセスが大幅に改善されることから、土地利用の高度化、都市機能の集積・強化が図られ、地域の活力・競争力が向上することで、かやの中央地区の都市拠点形成促進と船場団地の都市再生へ寄与する。



(1) 大阪都心部へのアクセス時間短縮、国土軸との結節強化

- 箕面市域は、大阪府の市町村の中でも特に大阪市方面の流動が多い地域であり、都心との結びつきが強い地域である。また、箕面新都心、水と緑の健康都市の開発等に伴い、人口の定着が着実に進むことから、新たな輸送需要が発生する。これに伴い、都心方面への交通流動が増加すると予想される
- しかし、箕面市域は、大阪都心から 20km 圏において、鉄道不便地域（自動車での移動は便利だが、鉄道での移動が不便な地域）の一つとなっている。
- このため、都心方面の交通需要に対して、千里中央までの輸送を路線バスに頼っている状況である（バスの分担率は約 70%）。
- 路線整備により、都心部へのアクセス時間は 5 分～15 分程度短縮されると予想され、都心部との結節強化が図られるとともに、新大阪駅で国土軸である新幹線との結節強化も図られる。

(2) 都心方面への道路交通混雑の緩和や環境負荷の軽減

- 新たな開発による人口の増加および国道 423 号バイパスの整備や第二名神の整備により、都心方面の自動車交通量は今後さらに増加すると考えられる。これにより、新御堂筋などの都心方面へのアクセス道路を中心とした道路混雑の深刻化が予想される。
- 2005 年 2 月 16 日に発効した京都議定書では、2008 年～2012 年に温室効果ガスの排出量を 6%減らすことが義務づけられており、運輸部門においては、特に自家用乗用車からの排出量の削減が重要な課題となっている。
- 新御堂筋と平行した当該路線の整備により、自動車交通の鉄道への転換が図られ、新御堂筋をはじめとする道路混雑の解消や環境負荷の軽減が期待できる。

(3) 大阪府内でも極めて高い自家用車依存からの脱却(公共交通指向型のコンパクトなまちづくり)

- 新駅の設置により、駅までの徒歩アクセス圏人口は約 2.5 万人増加すると考えられる。また、路線整備と合わせて、駅を中心としたバス路線網の再編等、公共交通体系の整備を行うことにより、自家用車から公共交通への転換が期待できる。
- これにより、箕面市のまちづくりの基本方向である、「環境重視のまちづくり」、「人間主体のまちづくり」、「新しい都市の魅力を創造するまちづくり」にしたがった、人と環境にやさしい、公共交通指向の交通体系整備による、コンパクトで高品質なまちづくりに寄与できるものと考えられる。

(4) 北大阪地域の広域交通ネットワークの強化、地域核の形成促進

- かやの中央は、既存の国道 171 号、国道 423 号による南北方向と東西方向の交通軸の結節点であるとともに、第二名神自動車道や国道 423 号バイパスの整備によって、第二名神からかやの中央を経由して大阪都心方面と連絡する広域的な交通の軸上に位置することとなる。
- よって、箕面新都心、水と緑の健康都市の開発等に伴う人口増による新たな輸送需要の発生等とあいまって、かやの中央は、現在の北摂の地域核である千里中央や、広い商圈をもつ商業施設等が立地する船場団地とともに大阪圏の拡大新都心（地域核）を形成することになる。
- 当該路線の整備により、広域的な交通、拠点形成の観点から、大阪の再生・発展を支える交通ネットワークとして、自動車交通と公共交通による機能的な交通ネットワークの強化が図られるとともに、まちづくりプロジェクトと連携した地域核の形成促進に寄与するものと考えられる。

2. 路線整備のミッションについて

大阪圏及び北大阪地域の活力向上に寄与すると考えられる千里中央からかやの中央に至る都市拠点の形成及び都市再生を支える重要なインフラ整備である北大阪急行延伸整備の主たる整備目的（ミッション）は、以下とする。

【路線整備のミッションについて 新】

- ①大阪都心部への鉄道アクセス時間を短縮し、大阪府北部の鉄道不便地域を解消するとともに、増加する都心方面への交通需要に対応することで、これまでのバスを主体とした交通システムから、鉄道を主体とした交通システムへと大幅なグレードアップを図る。
- ②大阪圏の南北方向の都市軸を支える大動脈である地下鉄御堂筋線、北大阪急行線を活用した、大阪都心部・新大阪と直結する広域的な鉄道ネットワークの形成により、北大阪地域や京都府中部、兵庫県中部地域から大阪都心部、新大阪、大阪圏の都市拠点、関西空港への広域的な鉄道アクセスの改善を図る。
- ③地域高規格道路である新御堂筋（国道423号）と並行した当該路線の整備により、都心方面への自動車交通の鉄道への転換を図り、道路交通混雑の緩和や環境負荷の軽減を図る。
- ④かやの中央地区を新駅の設置による新たな交通拠点として整備することにより、人と環境に優しい公共交通指向型のまちづくりに向け、新駅を中心としたバス路線網の再編等、総合的な交通体系の確立を図るとともに、既存の広域交通拠点である千里中央地区との機能分担により、かやの中央・千里中央地区の両地区が一体となった北大阪地域の広域交通拠点としての機能強化を図る。
- ⑤新駅の設置により、かやの中央地区と船場団地の都市拠点形成促進や都市再生を図るとともに、当該路線整備によりかやの中央地区・船場団地・千里中央地区の一連の都市拠点の一体化、都市機能の更なる高度化を促進し、北大阪地域の一大都市拠点の形成を図る。

【路線整備のミッションについて 旧】

(1) アクセス機能の強化

- ・ 鉄道不便地域を解消するとともに、当該地域から大阪都心部方面への時間短縮を図ることで、これまでのバスを主体とした交通システムから、鉄道を主体とした交通システムへと大幅なグレードアップを図る。
- ・ 新大阪駅への所要時間短縮を図ることで、国土軸新幹線との結節強化を図る。

(2) 総合的な交通体系の確立

- ・ 大阪都市圏における鉄道の大動脈である地下鉄御堂筋線や北大阪急行線を有効に活用しながら、南北方向の鉄道ネットワークの強化及び東西方向の結節強化を図るとともに、新御堂筋（国道 423 号）との機能分担により、自動車交通と公共交通による機能的な広域交通ネットワークの形成に寄与する。
- ・ 北部大阪地域の市街地の広がりに対応し、千里中央とかやの中央の適切な役割分担により、広域交通拠点としての機能強化を図り、都市機能の高度化に寄与する。
- ・ 新駅を設置し、鉄道駅までの徒歩アクセス圏の拡大や駅を中心とした交通結節機能を強化し、総合的な交通体系の確立を図る

(3) 環境への配慮

- ・ 都心方面への自動車交通量に対し、当該路線を延伸し、自動車交通を鉄道へ転換することにより、道路交通混雑の緩和や環境負荷の軽減を図る。
- ・ 新御堂筋（国道 423 号）との機能分担により、新御堂筋の自動車交通量の抑制に寄与する。

(4) まちづくりへの貢献

- ・ 北部大阪地域の都市拠点として位置づけられる千里中央地区や船場団地、かやの中央地区と新大阪・大阪都心を直結し、各地区への鉄道利便を向上することで、土地利用の高度化や都市機能の高度化を図り、大阪圏における都市拠点の形成促進に寄与する。
- ・ 延伸線の整備及び新駅の設定により、船場団地及びかやの中央地区への多方面からのアクセスを大幅に改善し、地域の活力・競争力を向上することで、かやの中央地区の都市拠点形成促進と船場団地の都市再生へ寄与する。
- ・ 箕面新都心、箕面森町等の開発により増加する都心方面への交通需要に対応し、開発地域の人口定着等、まちの発展に寄与する。
- ・ 駅の設定及び総合的な交通体系の確立により、箕面市が進めてきた公共交通との連携の上に成り立つ、かやの中央を中心としたコンパクトで高品質なまちづくりを完成形へと近づけ、自家用車への過度な依存からも脱却を図る。

【参考：平成 17 年度、18 年度調査におけるミッション】

- ①鉄道不便地域を解消するとともに、増加する都心方面への交通需要に対応するために、当該地域から大阪都心部方面へのアクセス機能の強化による時間短縮や新幹線との結節強化を図ることで、これまでのバスを主体とした通勤交通システムから、鉄道を主体とした交通システムへと大幅なグレードアップを図る。
- ②新御堂筋と平行した当該路線を延伸し、自動車交通を鉄道へ転換することにより、道路交通混雑の緩和や環境負荷の軽減を図る。
- ③新駅を設置し、鉄道駅までの徒歩アクセス圏の拡大や駅を中心とした交通結節機能の強化を図ることで、自家用車への過度な依存から脱却し、公共交通との連携の上に成り立つさらにコンパクト型の高品質なまちづくりへ寄与する。
- ④第二名神自動車道や国道 423 号バイパスの整備により、都心部へ流入する自動車交通量が増加することを踏まえ、当該路線の延伸により広域交通のネットワークを強化し、広域交通における自動車との適切な交通機能分担を図るとともに、かやの中央と千里中央や船場団地とが連携した、北大阪地域における地域核の形成促進に寄与する。